

『願う在宅生活を応援したい』

チーム名：淳風とよなかデイサービスセンター

【はじめに】

デイサービスのご利用者様の中には様々な疾患を抱えながら、高齢になっても一日でも長く在宅での生活を続けて行きたいと願っておられる本人様・家族様がたくさんおられます。そのような方達に私達デイサービスの職員としてどのように関わり・支えられるのか日々悩み学んでいる毎日です。A氏は平成21年7月に90歳で利用を開始され、平成30年1月に98歳でご逝去されるまで、人生の最後の8年6か月をご利用して頂きました。徐々に変化する身体・精神状態や家族様との関わりを通して行った取り組みを発表していきます。ご利用当初の疾患は高血圧症・脂質異常症・虚血性心疾患・多発性梗塞性認知症でした。お子様はお二人おられ、長い間息子様と二人暮らしをされておられた模様。お二人で互いに支え・支えられての生活であったと想像します。A氏のご近所をお一人でどこかへ行こうと歩かれるのを息子様がついて歩かれる事が多くなり、息子様お一人では限界があると感じられデイサービスのご利用を希望された経緯でした。当時の事を覚えている職員が少なくなり、A氏がカラオケ大会では上手に司会をされていた事や全体体操の時に前に出て先生をされていた等、以前のご様子を知る事は新しく入職した職員にとっても嬉しい驚きです。

【取り組み】

ご利用当初の関わりは帰りたい希望や無くした物があると不安感。また、当時はしっかりと歩かれていた為、お一人でエレベーターを降りて玄関まで行かれ「帰ります」とおっしゃられる事もしばしば…。不安感も多くなり、排泄での対応も多くなりました。都度、対応してきた事は日々の日誌から読み取れてきます。多くの家族様がそうであるように、A氏の息子様も愛情あふれるお世話をされ、長く平穏な日々を送っておられました。しかし、ご高齢に

なられたA氏の身体状態は徐々に変化がおりはじめ、圧迫骨折では精神的に不安定になるとの事で入院はせずご自宅での療養となりました。送迎では朝はA氏のタイミングで無理せず息子様が車で送られていましたが、歩行状態も不安定になられた時期には念のため施設の車椅子を玄関横に置いて置きますとお伝えしても「なんとか行けますから」と両手引きで4階デフロアまで歩いて来られる日々が続きました。お食事の量が減少してきた事に対しては、息子様にご自宅での様子の聞き取りを行い、全職員でA氏の（私ができること・できないことシート）を利用しそれぞれの視点から観察し、対応を行う事が出来ました。お身体の状態が思わしく無くなった時に、息子様から急変しても救急車は呼ばないでほしい・入院はさせたくないとの希望がありました。そして、大好きなデイサービスも体調が許す限り通わせてあげたいと希望されていました。

【考察】

デイサービスはそれぞれの身体状態にあわせ、本人様・家族様の希望に沿ったご利用を行っていきますが、時には前例のない事にも取り組まなければならない事もあります。その際には、前例のない事だからできないではなく、どのように取り組めば出来るのか？職員の育成はどのようにしていくのか？等、周囲の様々な方々に相談することによりできることも増えて行けるのではと思いました。これからも他部署と連携し、「いつまでも利用したいデイサービス」と思ってもらえる様に職員一丸となって頑張りたいと思っています。